

科 目	社会科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	教科書は使用しません。資料を配布します。
参考書	必須のものはありません。 授業内で推奨資料を紹介します。
成績評価	授業内小テスト30%+定期試験70%（小テストを実施しない場合は定期試験100%）
留意事項	具体的社会事象を扱います。最新の時事問題を取り上げることもあるため、普段から新聞・テレビ・ネット等を用いてニュースに触れておくよう心がけてください。授業内容を一部変更することがあるかもしれませんが、その場合は事前に告知します。

科目の目標	さまざまな社会現象を学際的な視点から読み解いていきます。身近でありながらも普段顧みられることの少ない法や行政制度を、既存の固着化したシステムとしてではなく、生きた人間関係のレベルに引き戻して考えます。その他、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生についても理解を深めます。
授業概要	授業教材としていくつかの映画を用います（映像の放映はない）。社会現象や社会問題をそれらの映画がどのように扱っているかを参考にすることで、授業理解の助けとします。

日程

回数	授業内容
1	社会科学とは何か ―― 社会科学のアウトライン
2	社会とは何か ―― 集団・組織、フォーマル組織・インフォーマル集団、社会化
3	通過儀礼 ―― その社会的意味、分離→移行→結合のプロセス、死と再生のシンボリズム
4	社会統計 ―― 統計資料の読み方
5	現代社会生活と法① ―― 憲法・刑法・刑事訴訟
6	現代社会生活と法② ―― 刑事裁判の問題点
7	裁判員制度① ―― 裁判員制度に関する詳細、市民参加型裁判の類型
8	裁判員制度② ―― 判決・量刑、正当防衛・過剰防衛・執行猶予
9	社会と犯罪① ―― 犯罪をめぐる解釈枠組み
10	社会と犯罪② ―― 社会的排除・包摂
11	ネット社会と監視社会① ―― ネット犯罪と関連法規
12	ネット社会と監視社会② ―― 監視社会と管理社会
13	社会保障と公衆衛生① ―― 医療保険制度、高齢者介護問題
14	社会保障と公衆衛生② ―― 国家試験関連過去問解説
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	岩坪 弘之	教員区分	一般教員

教科書	指定なし
参考書	特になし
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業中に理解できなかったことがないよう質問はその場で挙手をしてその都度解決する。理解をしたことは復習をして覚える。

科目の目標	専門科目の勉強に向けて基礎知識をつける。ヒトのからだのしくみや体内反応を理解する力を養い、学習する習慣を身に付けていく。
授業概要	授業資料はその都度配布する。授業開始時に論理的思考力を養う問題を解く。授業はスライド、板書で進める。

日程

回数	授業内容
1	ヒトのからだ
2	元素と周期表 原子の構造
3	イオン
4	化学変化と化学反応式
5	水溶液の性質① (割合 濃度)
6	水溶液の性質② (酸・塩基と pH)
7	糖 蛋白質 脂質
8	拡散 浸透 ろ過
9	電気
10	運動と力
11	光と音
12	遺伝
13	まとめ①
14	まとめ②
15	定期試験
16	試験解説

科 目	人文科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	島山 純一	教員区分	一般教員

教科書	浜島書店「基点◎現代文Ⅰ」
参考書	国語辞典、漢和辞典、ことわざ慣用表現辞典
成績評価	前半まとめ試験と定期試験(80%：詳細；各試験60点以上必須、成績参入割合は各試験40%)・漢字テスト(毎時実施)(10%)・提出物等(10%)
留意事項	1. 毎時教科書を持参し、授業中に解答・確認を行い、読み込む。 2. 演習問題を通して現代語の知識や学びに深い関心を持ち、身につける努力を続ける。

科目の目標	日本語の文章読解力を向上させるために、漢字・語句・慣用表現を学びその力を用いて適切に文章を読み取る。その上で段落メモの作成を行い設問を解き、百字要約をする。解答と解説を確認して内容理解を深め、作者の考えや経験を自身の知識や体験として追体験する。
授業概要	1. 漢字と言葉 読み書き・意味・関連語を一緒に学び語彙を広げ、毎時確認テスト実施。 2. 段落メモ 段落の中心文をまとめ、文章全体をまとめる。 3. 読解問題 記述・選択問題をバランス良く解答する力を育てる。解答を毎時採点する。 4. 百字要約 穴埋めなどで段落を踏んで記述力を身につける。

日程 注「授業内容」に掲示した教材は、他の作品に変更する事があります。

回数	授業内容
1	授業内容の説明・他己紹介、1) 【評論】細谷功「具体的＝わかりやすい？」を読む
2	2) 【小説】まほろ三桃「ものづくりの魅力」を読む
3	3) 【評論】原研哉「道具としてのデザイン」を読む
4	4) 【随筆】又吉直樹「文学のおもしろさ」を読む
5	5) 【評論】鷲田清一「とりとめもない交感」を読む
6	8) 【評論】大澤正彦「AIと人間の仕事」を読む
7	前半まとめ試験
8	前半まとめ試験解答と解説、9) 【小説】小川糸「バーバとかき氷」を読む
9	10) 【随筆】伊藤亜紗「手の人間関係」を読む
10	11) 【評論】山極寿一「人間の向社会行動とは」を読む
11	12) 【評論】永田和宏「若い時代の友人」を読む
12	13) 【小説】朝井リョウ「わからない理由」を読む
13	16) 【小説】幸田文「おとうと」を読む
14	17) 【評論】中西進「日本語の豊かさ」を読む。定期試験範囲の総合演習と振り返り
15	定期試験
16	定期試験解答と解説、短文読解解釈とグループワーク

科 目	人間学Ⅲ (心理学)	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	齋藤 宏子	教員区分	一般教員

教科書	指定なし
参考書	「人間関係論 第3版」石川ひろの他 医学書院
成績評価	グループワーク30%、振り返りシート20%、定期試験50%による総合評価とする。
留意事項	振り返りシートを毎回授業の最後に記入し、提出する。

科目の目標	全人的医療を提供するために必要な心理学の基礎を理解し、応用できるようになる。医療現場における人間関係、そして人間と社会の関わりについて学ぶ。
授業概要	毎回資料プリントを配布し、それに沿って進める。

日程

回数	授業内容
1	第1部 人間関係基礎論 第1章 人間関係の中の自己と他者
2	第1部 人間関係基礎論 第2章 対人関係と役割
3	第1部 人間関係基礎論 第3章 態度と対人行動
4	第1部 人間関係基礎論 第4章 集団と個人
5	第1部のまとめ
6	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第1章 コミュニケーション
7	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第2章 カウンセリングと心理療法
8	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第3章 コーチング
9	第2部 人間関係をつくる理論と技法 第4章 アサーティブ・コミュニケーション
10	第2部のまとめ
11	第3部 保健医療における人間関係 第1章 保健医療チームの人間関係
12	第3部 保健医療における人間関係 第2章 患者や家族を支える人間関係
13	第3部 保健医療における人間関係 第3章 地域をつくる人間関係
14	第3部のまとめ
15	定期試験
16	試験の解説、授業総括

科 目	解剖学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	矢倉 富子	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「プロメテウス解剖学コアアトラス」医学書院、「骨学のすゝめ」南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	100%の出席を目指す。

科目の目標	(1) 基本的な人体構造について理解する。 (2) 骨格系の基本的な構造と機能について理解する。
授業概要	解剖学は、医療の道に進む全ての人が最初に学ぶ学問であり、人体構造と機能を理解する事は必須である。講義は、人体構造の知識の必要性を踏まえながら、組織学・発生学・画像解剖学などの関連学問と関係づけて行う。さらに小テストを適宜行い、基礎的な知識を身に付ける。

日程

回数	授業内容
1	解剖学総論 (A 意義と分類)
2	解剖学総論 (B 細胞および組織、C 発生)
3	解剖学総論 (D 器官系統、E 人体の区分)
4	骨格系 (1 総論) 1
5	骨格系 (1 総論) 2
6	骨格系 (2 各論 : a 脊柱)
7	骨格系 (2 各論 : b 胸郭)
8	骨格系 (2 各論 : c 上肢骨)
9	骨格系 (2 各論 : d 上肢の関節)
10	骨格系 (2 各論 : e 下肢骨)
11	骨格系 (2 各論 : f 下肢の関節)
12	骨格系 (2 各論 : g 頭蓋) 1
13	骨格系 (2 各論 : g 頭蓋) 2
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	田中 教	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	講義中に紹介する。
成績評価	定期試験90%と小テスト10%で評価する。
留意事項	特になし

科目の目標	筋肉の名称・付着部位・起始停止・筋の作用・支配神経を覚える。
授業概要	全身の筋肉を既習した骨格系に付加する形で、その構成を俯瞰的に捉え、柔道整復師領域における主要な筋肉の位置・形態・特徴等を把握出来るように学習する。 進行状況により内容が変更となることがある。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション 概説 筋の作用
2	上肢の筋①（上肢帯・上腕）
3	上肢の筋②（上肢帯・上腕）
4	上肢の筋③（前腕）
5	上肢の筋④（前腕・手の筋）
6	下肢の筋①（下肢帯の筋）
7	下肢の筋②（大腿の筋）
8	下肢の筋③（下腿の筋）
9	下肢の筋④（足の筋）
10	頭部の筋・頸部の筋
11	胸部の筋・呼吸運動
12	腹部の筋
13	背部の筋
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	生理学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
参考書	特に指定しない。		
成績評価	定期試験で評価する。		
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。		

科目の目標	本科目においては、生理学の基礎、血液の生理学、循環器系、呼吸器系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。

日程

回数	授業内容
1	生理学の基礎：生理学とは、人体を構成する要素、ホメオスタシス、からだの化学的構成
2	生理学の基礎：細胞の機能的構造、DNAの複製とタンパク質合成
3	生理学の基礎：物質の移動（拡散、浸透、ろ過）と輸送
4	血液の生理学：血液の役割、血液の組成①
5	血液の生理学：血液の役割、血液の組成②
6	血液の生理学：血液の役割、血液の組成③
7	血液の生理学：免疫機構
8	血液の生理学：血液型、血液の凝固
9	循環の生理学：心臓の機能①
10	循環の生理学：心臓の機能②
11	循環の生理学：循環の調節①
12	循環の生理学：循環の調節②
13	循環の生理学：局所循環、脳脊髄液①
14	循環の生理学：局所循環、脳脊髄液②
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎柔道実技 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	川崎 有子	教員区分	一般教員

教科書	指定なし
参考書	指定なし
成績評価	実技試験100点満点、出席評価（欠席：－5点、遅刻：－3点）とする。
留意事項	1. 約束やルールを守り自他の健康と安全に留意して真摯に取り組むこと。 2. 見学の場合、柔道衣に着替えて授業内容のレポートを提出することで出席とする。 3. 爪を切ること。アクセサリ等は身に着けず、髪が長い場合は結ぶこと。

科目の目標	柔道の精神的修養における徳性を養い、身だしなみを整える。礼法（立礼・坐礼・拝礼）を修得することで、内に礼の精神と、外に礼法を正しく守る。受身（後受身、横受身、前回り受身）を身に付ける。柔道の基本技術を学び、動きの変化に応じた技に繋げる。
授業概要	柔道の「精力善用」「自他共栄」の精神から、柔道整復師としての資質（人格形成）、心身の鍛錬を目的とし、礼儀作法の修得を最も重要とし進めていく。友達と協力し積極的に取り組むことでコミュニケーション力と主体的に取り組む力を養う。身体の動きを理解し、柔道整復の技術や手技、障害予防を考えた授業を行っていく。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション（授業概要について、柔道の歴史、グループ編成）
2	柔道に必要なトレーニングを考える、礼法（立礼・坐礼・敬礼・拝礼）
3	柔道衣の着方、礼法（立礼・坐礼）、受身（後受身、横受身）
4	礼法（立礼・坐礼）、受身の基本（後受身、横受身）
5	礼法（立礼・坐礼）、受身の基本（後受身、横受身、前回り受身、ペアトレーニング）
6	礼法、受身の基本、柔道の基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き）
7	礼法、受身の基本、柔道の基本動作
8	礼法、受身の基本、柔道の基本動作、投形（浮落）
9	礼法、受身の基本、柔道の基本動作、投形（浮落、背負投）
10	礼法、受身の基本、柔道の基本動作、投形（浮落、背負投、浮腰）
11	礼法、受身の基本、柔道の基本動作、投形（浮落、背負投、浮腰、払腰）
12	礼法、受身の基本、投形（浮落、背負投、浮腰、払腰、支釣込足）、昇段審査に基づく実践
13	礼法、受身の基本、投形（浮腰、払腰、支釣込足、送足払）、昇段審査に基づく実践
14	実技試験1
15	実技試験2
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復学総論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	鈴木 忠慶	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全出席する。欠席した際は概略を伝えるので、必ず申し出る。 2. 授業後でも教科書の読めない漢字や意味が不明な単語は聞くようにする。 3. 復習は授業内でも繰り返し行うので、粘り強く学習する。 4. 授業中の私語は禁止だが、不明な点があれば遠慮せず質問をする。

科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学を学びながら骨損傷の基礎を理解する。 2. 外傷の発生から骨折の経過について演繹し周辺知識を理解する。 3. 学んだ内容を他者に説明できるようになる。
授業概要	教科書に沿ってスライドを活用し配布プリントの書き込みによって進める。授業後に前回の確認事項の整理を行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス
2	骨の形態・機能と骨損傷の概要
3	骨折の分類 1 程度による分類
4	骨折の分類 2 方向・創部の交通・骨折数の分類
5	骨折の分類 3 外力の働き方による分類
6	骨折の分類 4 外力の働き方による分類
7	骨の機能から分類についての演繹
8	骨折の症状 一般外傷症状と固有症状
9	骨折の全身症状と局所症状
10	骨折の合併症 1 併発症と続発症
11	骨折の合併症 1 後遺症
12	小児・高齢者骨折の特徴
13	骨折の骨癒合日数と治癒過程
14	骨折の症状から治癒過程についての演繹
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	河原 克哉	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回欠席すると授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 予め教科書を読んで、読めない漢字を調べておく。 3. 復習はその日のうちに行う。 4. 授業中、私語、飲食は禁止とする。不明な点があれば挙手をしてその都度質問する。

科目の目標	1. 解剖学を学びながら関節損傷の基礎を理解する。 2. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 3. 学んだ内容を他者に説明できるようにする。
授業概要	関節損傷について教科書に沿ってスライドを活用し配布プリント、板書にて進めていく。授業開始時に前回の復習テストを行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回数	授業内容
1	授業ガイダンス
2	関節の損傷(関節の構造と機能①)
3	関節の損傷(関節の構造と機能②)
4	関節の損傷(関節部損傷の概説・分類、鑑別診断を要する類症①)
5	関節の損傷(関節部損傷の概説・分類、鑑別診断を要する類症②)
6	関節の損傷(関節構成組織損傷①)
7	関節の損傷(関節構成組織損傷②)
8	関節の損傷(関節構成組織損傷③)
9	関節の損傷(脱臼①)
10	関節の損傷(脱臼②)
11	関節の損傷(脱臼③)
12	関節の損傷(脱臼④)
13	関節の損傷(脱臼⑤)
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	武島 千明	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。1回休むと授業についていけなくなる事を自覚する。 2. 教員から質問をするので授業に参加して答えられるようにする。 3. 質問シート(大福帳)を利用して理解できなかったことをそのままにしない。

科目の目標	1. 柔道整復師の業務を理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の総論を教科書に沿って配布資料、板書、スライドにて進めていく。 適宜小テストを行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス
2	柔道整復師とは
3	柔道整復師の沿革、柔道整復師倫理綱領柔道整復師の業務範囲
4	柔道整復師の業務範囲
5	各組織の損傷 筋の損傷①
6	各組織の損傷 筋の損傷②
7	各組織の損傷 筋の損傷③
8	各組織の損傷 筋の損傷④
9	各組織の損傷 腱の損傷①
10	各組織の損傷 腱の損傷②
11	各組織の損傷 腱の損傷③
12	各組織の損傷 末梢神経の損傷①
13	各組織の損傷 末梢神経の損傷②
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復基礎実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	宮下 寧音・今吉 拓哉	教員区分	実務教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
参考書	特になし		
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、身嗜み、授業態度で評価する。		
留意事項	実習着を着用する。施行部位に合わせて素肌が露出できるようにする。		

科目の目標	この科目では固定法を理解し、柔道整復師として必要な基本包帯法の習得を目標とする。また、常に適切な態度で実習に臨むことにより医療人としての基礎を養う。		
授業概要	巻軸包帯、晒などの材料を用いた包帯法を実演し説明する。学生が施術者、助手、患者モデルになり各包帯法をお互いに繰り返し実習する。医療人に相応しい態度、話し方で行う。		

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。		
実務経験と授業の関連	臨床で治療に用いた包帯法を授業に取り入れる。		

日程

回数	授業内容	
1	ガイダンス 材料確認	宮下
2	巻軸帯の巻き方・巻き戻し、部位別包帯法 — 前腕部（環行帯・螺旋帯・蛇行帯）	宮下
3	部位別包帯法 — 前腕部（折転帯）、肘部（亀甲帯）	今吉
4	部位別包帯法 — 肩部（麦穂帯）、股関節部（麦穂帯）	今吉
5	部位別包帯法 — 股関節部（麦穂帯）、膝部（亀甲帯）	宮下
6	部位別包帯法 — 下腿部（折転帯・麦穂帯）	今吉
7	部位別包帯法 — 足関節（麦穂帯・亀甲帯）	宮下
8	部位別包帯法 — 手関節（麦穂帯）、手指部（麦穂帯）	今吉
9	冠名包帯法（デゾー包帯）	宮下
10	冠名包帯法（ヴェルポー包帯、ジュール包帯）	今吉
11	総復習1（定期試験1の範囲）	宮下
12	総復習2（定期試験2の範囲）	今吉
13	総復習3	宮下・今吉
14	定期試験1	宮下・今吉
15	定期試験2	宮下・今吉
16	試験解説、授業総括、晒包帯作成	宮下・今吉

科 目	柔道整復基礎実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	河原 克哉	教員区分	実務教員

教科書	「包帯固定学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）、身嗜み、授業態度で評価する。
留意事項	実習着を着用する。テーピング施行部位に合わせ素肌を露出でき、テーピングを巻かれやすいよう準備する。下肢の場合、実習着の下はハーフパンツ等とする。

科目の目標	柔道整復師として必要なテーピング技能の習得を目標とする。
授業概要	ホワイトテープを用いてテーピングを実演し説明する。続いて、学生が施術者、患者モデルになりテーピングをお互いに繰り返し実習する。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	接骨院にて施術に使用しているテーピングを授業で行う。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス
2	テーピングの基礎 アンダーラップの巻き方
3	部位別テーピング1 － 足関節①
4	部位別テーピング2 － 足関節②
5	部位別テーピング3 － 足関節③
6	部位別テーピング4 － 足関節・復習①
7	部位別テーピング5 － 足関節・復習②
8	部位別テーピング6 － 膝関節①
9	部位別テーピング7 － 膝関節②
10	部位別テーピング8 － 手関節・手指
11	部位別テーピング9 － 足底・足趾
12	総復習1
13	総復習2
14	定期試験1
15	定期試験2
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復診察法 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	神田 美樹	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	実習着を着用し、実習着の下は素肌を露出できる衣類を着用する。 医療人として相応しい身嗜みと態度で出席する。

科目の目標	臨床の基礎となる部位名称、骨や筋・腱付着部などの正しい名称、位置を理解する。
授業概要	分骨模型を使用し、骨の名称や部位を確認し触診する。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床で行っている診察方法を授業に取り入れる。

日程

回数	授業内容
1	体表区分
2	体幹の骨の名称と位置
3	上肢の骨の名称と位置①
4	上肢の骨の名称と位置②
5	上肢の骨の名称と位置③
6	上肢の骨の名称と位置④
7	上肢の骨の名称と位置⑤
8	下肢の骨の名称と位置①
9	下肢の骨の名称と位置②
10	下肢の骨の名称と位置③
11	下肢の骨の名称と位置④
12	下肢の骨の名称と位置⑤
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括

科 目	解剖学V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	北原 秀治	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社		
参考書	「入門人体解剖学」南江堂、「プロメテウス解剖学コアアトラス」医学書院、授業中に配布する資料		
成績評価	定期試験で評価する。		
留意事項	100%の出席を目指す。		

科目の目標	神経系の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経、感覚器の構造と役割を説明できる。		
授業概要	中枢神経系、末梢神経系および感覚器の解剖学を講義する。		

日程

回数	授業内容
1	神経系の区分と特徴、神経組織および基礎
2	中枢神経：灰白質、白質、神経節と根、中枢神経系の区分、脳室系、髄膜と脳脊髄液
3	中枢神経：脳各部の形態と機能1 終脳、間脳
4	中枢神経：脳各部の形態と機能2 中脳、橋、延髄、小脳
5	中枢神経：脊髄の区分、伝導路、中枢神経練習問題
6	末梢神経：脳神経1
7	末梢神経：脳神経2、脳神経練習問題
8	末梢神経：脊髄神経1
9	末梢神経：脊髄神経2、皮膚分節
10	末梢神経：脊髄神経練習問題、交感神経と副交感神経
11	末梢神経：伝導路練習問題、感覚器：外皮、視覚器
12	感覚器：聴覚器、味覚器、嗅覚器
13	体表解剖、感覚器練習問題
14	総復習および試験対策
15	定期試験
16	定期試験の解説および神経系講義総括

科 目	生理学IV	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、予習・復習を必ず行うこと。予習は教科書の該当部分を必ず読むこと。配布資料と教科書を必ず持参すること。復習には教科書と配布資料を用いること。

科目の目標	生体は生命を維持するために、内部環境の恒常性を保っている。生理学では、われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学IVにおいては、神経系および感覚系の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿ってスライドを用いながら講義を行い、生理学の知識を深めていく。必要に応じて確認テストを行う。講義の進度により授業内容が前後する場合がある。

日程

回 数	授業内容
1	神経の生理：神経系の構成要素、静止膜電位、活動電位
2	神経の生理：興奮の伝導と伝達
3	神経の生理：神経系の構成、脳の高次機能
4	神経の生理：睡眠と覚醒、学習と記憶
5	神経の生理：内臓機能の調節、視床下部による調節
6	神経の生理：自律神経系の構成
7	神経の生理：自律神経系による調節
8	神経の生理：内臓反射
9	感覚の生理：感覚の一般的な特性
10	感覚の生理：視覚
11	感覚の生理：聴覚、前庭感覚
12	感覚の生理：味覚、嗅覚
13	感覚の生理：体性感覚、内臓感覚
14	感覚の生理：痛覚
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	生理学V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業をよく聞き、復習を必ず行うこと。

科目の目標	生体活動における機械力の発生装置である「筋肉」についての構造と機能について理解する。 また、それらを統合的に調節管理する神経系の機能とその連携について理解する。 高齢者の生理機能と健常成人との違いについて理解する。 競技者の生理機能についての概要を把握し、トレーニングに伴う生体機能変化の特徴を理解する。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。

日程

回数	授業内容
1	尿の生成と排泄①：腎臓の作りと働き
2	尿の生成と排泄②：尿の調節ホルモンと糸球体濾過
3	尿の生成と排泄③：尿の調節ホルモンと糸球体濾過
4	筋の生理①：骨格筋の構造・骨格筋の収縮と弛緩
5	筋の生理②：骨格筋と張力の関係・筋電図筋・心筋・平滑筋
6	運動の生理①：運動神経と運動単位・力の調節
7	運動の生理③：脊髄による反射とその調節
8	運動の生理④：脳幹による運動調節
9	運動の生理⑤：高次運動機能
10	運動の生理⑥：運動関連脳部位間の接続
11	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化①
12	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化②
13	高齢者、競技者の生理学的特徴・変化③
14	1～13回復習・確認・まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	運動学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	船渡 和男	教員区分	一般教員

教科書	「運動学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社 「生理学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	

科目の目標	運動学は人間の身体運動を科学的に研究する学問分野であることを理解する。 身体運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を習得し、神経-筋の統合処理によって生じる身体運動の仕組みについて理解することを目標とする。
授業概要	身体運動に関する機能解剖学、バイオメカニクスおよび神経生理学について学習する。 姿勢や運動を構成する神経-筋骨格系の関連性について学習する。 (姿勢と歩行運動・運動機能発達・運動学習(トレーニング)による運動技能獲得の過程)

日程

回数	授業内容
1	運動学の目的・運動の表し方、身体運動と力学①
2	身体運動と力学②
3	身体運動と力学③
4	姿勢(姿勢の分類、重心、立位姿勢)
5	姿勢(立位姿勢の制御)
6	歩行(歩行周期、歩行の運動学的分析①)
7	歩行(歩行周期、歩行の運動学的分析②)
8	歩行(歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動①)
9	歩行(歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動②)
10	歩行(歩行のエネルギー代謝、異常歩行)
11	運動発達(神経組織の成熟、乳幼児の運動発達:反射・反応、出生早期にみられる反射)
12	運動発達(乳幼児の運動発達:全身運動、歩行運動、上肢運動の発達)
13	運動学習①
14	運動学習②、第1・2・3・9・10・11・12章補足およびまとめ
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	病理学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	竹内 梨紗	教員区分	一般教員

教科書	「病理学概論 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	講義プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	病理学が関連する全身の影響について常に考えること。

科目の目標	病理学の基礎を理解し、国家試験の出題傾向を把握する。
授業概要	教科書の重要項目について解説し、繰り返し問題演習を行う。

日程

回数	授業内容
1	病理診断、染色法、退行性病変① 萎縮（分類）
2	退行性病変② 萎縮、変性（定義と分類）、壊死（壊死とアポトーシス）
3	代謝異常と疾病、循環障害① 循環系の概要
4	循環障害② 循環系の概要（充血、うっ血、虚血、出血）
5	循環障害③ 血液循環障害（血栓症、塞栓症、梗塞）
6	循環障害④ リンパ循環障害（浮腫の成因）、進行性病変① 肥大（分類）
7	進行性病変② 再生（細胞の再生能力）、化生
8	進行性病変③ 肉芽組織（創傷の治癒と異物の処理）
9	進行性病変④ 移植、炎症における循環障害
10	炎症① 形態学的変化、分類（滲出性炎、炎症における循環障害）
11	炎症② 形態分類
12	炎症と免疫機構について①
13	炎症と免疫機構について②
14	確認とまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	一般臨床医学Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	佐々木 皓平	教員区分	一般教員

教科書	「一般臨床医学 改訂第3版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	配布資料、「内科診断学」医学書院、「内科学」朝倉書店
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復学の各講義・実習と関連付けて学習すること。

科目の目標	重要な疾患概念の把握・理解と臨床に向けての知識を習得する。
授業概要	教科書の項目を中心に配布資料を用いて解説する。授業内容は進み具合で変更する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	診察概論・問診
3	視診 体格・体型、体位・姿勢
4	視診 栄養状態、精神状態
5	視診 異常運動、歩行
6	視診 皮膚の状態、頭部
7	視診 顔面部、頸部、胸部
8	視診 腹部、背部、四肢
9	視診 背部、四肢
10	打診
11	聴診
12	触診
13	生命徴候
14	反射検査
15	定期試験
16	試験の解説

科 目	基礎柔道実技Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	田中 誠人	教員区分	一般教員

教科書	
参考書	
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	実技中の安全管理に努めること。

科目の目標	精力善用、自他共栄の精神を学ぶ。 柔道整復師としての基本的な柔道の心・技・体について理解する。 3年間で初段の実力習得を目指す。
授業概要	受身、投の形への理解・技術発展。柔道における精神・教えを説く。

日程

回数	授業内容
1	「礼法 受身」
2	投の形「手技（浮落）（背負投）」立ち技練習
3	投の形「手技（背負投）（肩車）」立ち技練習
4	投の形「手技（肩車）腰技（浮腰）」立ち技練習
5	投の形「腰技（浮腰）（払腰）」立ち技練習
6	投の形「腰技（払腰）（釣込腰）」立ち技練習
7	投の形「腰技（釣込腰）足技（送足払）」立ち技練習
8	投の形「足技（送足払）足技（支釣込足）」立ち技練習
9	投の形「足技（支釣込足）足技（内股）」立ち技練習
10	投の形「足技（内股）立ち技練習
11	投の形「手技」復習 立ち技練習
12	投の形「腰技」復習 立ち技練習
13	投の形「足技」復習 立ち技練習
14	投の形総合
15	定期試験
16	試験解説

科 目	柔道整復学各論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	神田 美樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。 2. 教科書を必ず持参する。 3. 不明な点はその都度質問し、復習・予習を怠らない。 4. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	各部位の機能解剖を学びながら上肢骨折の理解を深め、症例に関する知識を習得していく。
授業概要	教科書に沿って配布資料、スライド、板書にて進行する。

日程

回数	授業内容
1	鎖骨骨折①
2	鎖骨骨折②
3	肩甲骨骨折①
4	肩甲骨骨折②
5	上腕骨近位部骨折①
6	上腕骨近位部骨折②
7	上腕骨骨幹部骨折①
8	上腕骨骨幹部骨折②
9	上腕骨遠位部骨折①
10	上腕骨遠位部骨折②
11	上腕骨遠位部骨折③
12	前腕骨近位部骨折①
13	前腕骨近位部骨折②
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 全出席する。 2. 配布資料を各自管理し、整理する。 3. 不明な点はその都度質問し、自己研鑽に努める。 4. 進行状況により授業内容を変更することがある。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って資料プリント、板書およびスライドにて進めていく。 小テストを適宜行う。

日程

回数	授業内容
1	前腕部の機能解剖 橈骨骨幹部骨折
2	ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折
3	モンテギア骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折
4	橈骨遠位端部骨折1 コーレス骨折
5	橈骨遠位端部骨折2 スミス骨折、バートン骨折
6	橈骨遠位端部骨折3 ショウファー骨折、橈骨遠位骨端線離開 前腕骨骨折復習
7	手根部の機能解剖 舟状骨骨折
8	三角骨骨折、有鉤骨骨折
9	豆状骨骨折、その他の手根骨骨折 手根骨骨折復習
10	手指部の機能解剖 中手骨骨頭部骨折、中手骨頸部骨折
11	中手骨骨幹部骨折、第1中手骨基部骨折、第5中手骨基部骨折
12	基節骨骨折、中節骨骨折
13	末節骨骨折、マレットフィンガー 中手骨骨折・指骨骨折復習
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	適宜、資料プリントを配布する。
成績評価	定期試験70%、小テスト30%で評価する。
留意事項	1. 全出席する。 2. 配布資料を各自管理し、整理する。 3. 不明な点はその都度質問し、自己研鑽に臨む。 4. 進行状況により授業内容を変更があり得る。

科目の目標	1. 外傷が発生するメカニズムを理解する。 2. 解剖学を学びながら各組織損傷の基礎を理解する。
授業概要	各組織損傷の各論を教科書に沿って、資料プリントおよび板書、スライドにて進めていく。 小テストを適宜行う。

日程

回数	授業内容
1	鎖骨の脱臼①
2	鎖骨の脱臼②
3	肩関節脱臼①
4	肩関節脱臼②
5	肩関節脱臼③
6	肘関節の脱臼①
7	肘関節の脱臼②
8	手関節部の脱臼①
9	手関節部の脱臼②
10	手関節部の脱臼③
11	手関節部の脱臼④
12	手根中手関節の脱臼
13	中手指節関節、指節間関節の脱臼①
14	中手指節関節、指節間関節の脱臼②
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学各論V	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	宮下 寧音	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	プリント資料を配布する。
成績評価	定期試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	全出席すること。また、授業をただ聞いているだけにせず進んで内容理解に励むこと。

科目の目標	上肢の軟部組織損傷および疾患を学び、各論を理解する。各部位の機能解剖を学び、損傷の理解を深め症例に関する知識を習得していく。
授業概要	配布資料、板書、スライドにて進行する。適宜小テストを行い理解度の確認を行う。進行具合により授業内容を変更する。

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス、肩関節部の軟部組織損傷①
2	肩関節部の軟部組織損傷②
3	肩関節部の軟部組織損傷③
4	肘関節部の軟部組織損傷①
5	肘関節部の軟部組織損傷②
6	前腕部・手関節部の軟部組織損傷①
7	前腕部・手関節部の軟部組織損傷②
8	手部・指部の軟部組織損傷①
9	手部・指部の軟部組織損傷②
10	上肢の末梢神経損傷①（正中神経損傷）
11	上肢の末梢神経損傷②（尺骨神経損傷）
12	上肢の末梢神経損傷③（橈骨神経損傷）
13	試験前 総復習①
14	試験前 総復習②
15	定期試験
16	解答解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	石川 大樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	資料プリント、PPTスライド
成績評価	定期試験、出席状況で評価する。(欠席：-5点 遅刻：-3点)
留意事項	実習着着用、医療人として相応しい身嗜みとし、毎回出席を原則とする。 私語厳禁、携帯電話の使用を原則禁止する。

科目の目標	上肢脱臼の徒手整復法、固定法、患者管理について理解し修得する。 脊柱、体幹の徒手検査法について重要な知識、技能を理解し修得する。
授業概要	臨床現場を想定し、各脱臼の徒手整復法・固定法と各部位の診察法・徒手検査法を繰り返し練習する。

日程

回数	授業内容
1	肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の整復・固定法①
2	肩鎖関節脱臼（上方脱臼）の整復・固定法②
3	肩関節脱臼（前方脱臼）の整復・固定法①
4	肩関節脱臼（前方脱臼）の整復・固定法②
5	肘関節脱臼（後方脱臼）の整復・固定法①
6	肘関節脱臼（後方脱臼）の整復・固定法②
7	肘内障の整復法
8	PIP関節脱臼（背側脱臼）の整復・固定法
9	第1指MP関節脱臼（背側脱臼）の整復・固定法
10	脊柱・体幹の徒手検査法①
11	脊柱・体幹の徒手検査法②
12	総復習①
13	総復習②
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復各論実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	石川 大樹	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	配布プリント、PPTスライド
成績評価	定期試験、出席状況で評価する。(欠席：-5点 遅刻：-3点)
留意事項	実習着着用、医療人として相応しい身嗜みとし、毎回出席を原則とする。 私語厳禁、携帯電話の使用を原則禁止する

科目の目標	上肢骨折の徒手整復、固定法、患者管理について理解し修得する。 骨折の転位を立体的に理解し、根拠に基づいた徒手整復法・固定法を修得する。
授業概要	臨床現場を想定し、各骨折の徒手整復法、固定法を繰り返し練習する。

日程

回数	授業内容
1	授業ガイダンス・骨折の転位理解と整復法(総論)
2	鎖骨骨折—整復法・固定法
3	上腕骨近位端骨折—整復法・固定法
4	上腕骨顆上骨折—整復法・固定法①
5	上腕骨顆上骨折—整復法・固定法②
6	前腕遠位端骨折—整復法・固定法①
7	前腕遠位端骨折—整復法・固定法②
8	前腕遠位端骨折—整復法・固定法③
9	手・指部の骨折—整復法・固定法①
10	手・指部の骨折—整復法・固定法②
11	手・指部の骨折—整復法・固定法③
12	手・指部の骨折—整復法・固定法④
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	4 (年間)
		時間数	88
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	鈴木 忠慶 他	教員区分	実務教員

教科書	「柔道整復・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「柔道整復・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	必要に応じて参考資料を配布する。
成績評価	小テスト20%、実技試験80%を合算し、総合評価から都度の身だしなみ不可の点数を減点し評価する。
留意事項	臨床実習要項を把握すること。

科目の目標	正確な鑑別能力を養いながら、基本的な臨床力を身に付けることを目的に学習する。
授業概要	臨床に必要な内容を理解した上で、臨床現場において実習を行う。

実務経験	柔道整復の実務に3年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を活かして基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回数	授業内容
1・2	オリエンテーション
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	フィードバック・再試験

33・34	臨地実習（別途マニュアルを配布する。）
35・36	
37・38	
39・40	
41・42	
43・44	

科 目	整形外科学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	高柳 和貴	教員区分	一般教員

教科書	「整形外科学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
参考書	特になし		
成績評価	定期試験（80%）、小テスト（20%）で評価する。		
留意事項	授業内容は進行状況等で変更もあり得る。		

科目の目標	柔道整復師として運動器疾患を扱ううえで整形外科学を十分に理解する。		
授業概要	整形外科は別名「運動器外科」と言われるように各種運動器疾患を扱う科であり整形外科の扱う疾患の種類は多く、その中で代表的な運動器疾患について病態、診断、症状、治療などを概説する。柔道整復師に、必要十分な整形外科学分野の基本的知識を、教科書を中心に授業を進める。医学臨床分野、医学基礎分野を理解することにより、の知識の向上、学術分野の飛躍を目標とする。		

日程

回数	授業内容
1	疾患別各論（感染性疾患） 急性化膿性骨髄炎、プロディ骨膿瘍、骨関節結核
2	疾患別各論（骨及び軟部腫瘍） 悪性骨腫瘍、良性骨腫瘍
3	疾患別各論（骨及び軟部腫瘍） 悪性軟部腫瘍、良性軟部腫瘍
4	疾患別各論（非感染性軟部・骨関節疾患） 変形性関節症、関節リウマチ、痛風
5	疾患別各論（その他の関節炎、骨粗鬆症） 強直性脊椎炎、シャルコー関節、骨粗鬆症
6	疾患別各論（全身性の骨・軟部疾患） 軟骨無形成症、モルキオ病、くる病
7	疾患別各論（骨端症） ブラント病、セーバー病、フライバーグ病
8	疾患別各論（四肢循環障害） 末梢動脈疾患、深部静脈血栓、静脈瘤 小テスト
9	疾患別各論（神経・筋疾患） 神経麻痺、絞扼性神経障害、腕神経叢損傷
10	疾患別各論（全身性神経・筋疾患） 脳性麻痺、脊髄腫瘍、脊髄損傷
11	身体部位別各論（骨盤及び下肢の疾患） 骨盤・股関節の骨折手術、骨盤・股関節の損傷
12	身体部位別各論（大腿・膝関節） 大腿・膝関節の骨折の手術、大腿・膝関節の損傷
13	身体部位別各論（下腿・足関節） 下腿・足関節の手術、下腿・足関節の損傷
14	身体部位別各論（足・足趾） 足・足趾の手術、足・足趾の損傷、足の変形
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	リハビリテーション医学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	小松 泰喜	教員区分	一般教員

教科書	「リハビリテーション医学 改訂第4版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「見て知る リハビリテーション医学」丸善出版
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業は教科書に沿って進めるので、事前に教科書を読んでから参加すること。

科目の目標	柔道整復師として必要なリハビリテーション医学（総論）の知識を学ぶ。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を理解する。 ・リハビリテーション医学の各種療法について学修し、理解する。

日程

回数	授業内容
1	リハビリテーションの概念・リハビリテーションの対象と障害者の実態
2	障害の階層とアプローチと障害者の実態（ICDとICIDH、ICIDHからICFへ・ICF-CY、ICFコアセット、WHODAS 2.0について）
3	リハビリテーション評価学（運動学と機能解剖、身体所見、小児運動発達の評価、ADLの評価、心理的評価、認知症の評価）
4	リハビリテーション評価学（電気生理学的検査、画像診断、運動失調）・リハビリテーション障害学（障害の評価、関節拘縮、関節の変形、筋萎縮）
5	リハビリテーション障害学（神経麻痺、痙縮、摂食嚥下障害、高次脳機能障害）・リハビリテーション治療学（障害の受容、廃用症候群、関節拘縮）
6	リハビリテーション治療学（リンパ浮腫、筋力強化、慢性疼痛、中枢神経と痙縮、バイオフィードバック、歩行練習、全身運動、リスク管理）
7	リハビリテーション医学の関連職種（医師・リハビリテーション科専門医、理学療法士 他）・リハビリテーションの治療技術（理学療法、作業療法）
8	リハビリテーションの治療技術（言語聴覚療法、補装具）・高齢者のリハビリテーション（平均寿命と健康寿命、フレイル）
9	高齢者のリハビリテーション（認知症、高齢者虐待、パーキンソン病、脳卒中）・運動器のリハビリテーション（骨折の治療と後療法）
10	運動器のリハビリテーション（骨粗鬆症、捻挫へのアプローチ）
11	運動器のリハビリテーション（上肢損傷後症候群、下肢損傷後症候群）
12	運動器のリハビリテーション（頸肩腕症候群、腰痛症の病態とアプローチ、肋骨骨折、アキレス腱断裂へのアプローチ）
13	リハビリテーションと福祉（社会福祉、介護保険）・障害者スポーツ（障害者スポーツの概要、障害者スポーツの歴史、分類）
14	まとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	基礎柔道実技V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	
参考書	
成績評価	実技試験（70%）、小テスト（30%）、出席状況（欠席：-5点、遅刻：-3点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技中の安全管理に努めること。

科目の目標	柔道整復師としての基本的な柔道の心、技について理解する。 併せて認定実技審査に向けての柔道実技を習得する。
授業概要	受身、立技、寝技への理解・技術発展。柔道における精神・教えを習得させる。

日程

回数	授業内容
1	礼法1 受身1 投の形「浮落」 約束稽古1
2	礼法2 受身2 投の形「背負投」 約束稽古2
3	礼法3 受身3 投の形「肩車」 約束稽古3
4	礼法4 受身4 投の形「浮腰」 約束稽古4
5	礼法5 受身5 投の形「払腰」 約束稽古5
6	礼法6 受身6 投の形「釣込腰」 約束稽古6
7	礼法7 受身7 投の形「送足払」 約束稽古7
8	礼法8 受身8 投の形「支釣込足」 約束稽古8
9	礼法9 受身9 投の形「内股」 約束稽古9
10	総合練習1
11	総合練習2
12	総合練習3
13	総合練習4
14	実技試験1
15	実技試験2
16	試験解説、まとめ

科 目	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	有川 量崇・田口 千恵子	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
参考書	適宜参考資料を配布する。		
成績評価	定期試験（60％）、中間テスト（40％）で評価する。		
留意事項	特になし。		

科目の目標	超高齢社会を迎え、医療従事者として一般医学の知識習得および公衆衛生の推進者として保健医療活動の実践能力養成を目標とする。		
授業概要	基本的にスライド、ハンドアウトを用いる。		

日程

回数	授業内容	
1	環境衛生（環境保健）1：環境問題、環境要因	（有川）
2	環境衛生（環境保健）2：喫煙と健康、大気汚染	（有川）
3	生活環境：水の衛生・水質汚染	（田口）
4	食品衛生活動：栄養改善活動、廃棄物処理	（田口）
5	医療倫理と医療安全、疫学：公衆衛生活動と倫理、医療事故、疫学の意義、調査方法	（有川）
6	母子保健：ライフサイクルと母子保健、母子保健の指標	（有川）
7	学校保健：学校保健の意義、学校保健対策、保健教育	（田口）
8	中間テスト、解説	（田口）
9	産業保健：産業保健の目的、労働災害、職業病	（有川）
10	成人・高齢者保健：各種疾患の病態、認知症高齢者保健対策、介護保険	（田口）
11	地域保健と国際保健：地域保健活動、保健に関する国際協力と世界保健機関	（有川）
12	精神保健：精神の病気、精神保健活動	（田口）
13	衛生行政と保険医療制度：衛生行政の概要、医療保険	（有川）
14	1回～13回までのまとめ	（田口）
15	定期試験	（有川）
16	解答と解説、授業総括	（田口）

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「関係法規 2025年版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社		
参考書	資料、問題を配布する。		
成績評価	定期試験（50%）、小テスト（50%）で評価する。		
留意事項	1. 100%の出席を目指す。 2. 予習、復習を怠らない。 3. 授業中、私語を慎む。不明な点があれば挙手にてその都度質問すること。授業後も可。 4. ノート又は資料にメモをとること。 5. 進行状況により、変更もありうる。		

科目の目標	柔道整復師として必要な法の概念を理解する。各事項を確実に理解し国家試験への学力・理解力を養う。
授業概要	柔道整復師法を中心にその他の法を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	序論①：法の意義・体系、柔道整復師および柔道整復に関する法規、柔道整復師と患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント
2	序論②：法の意義・体系、柔道整復師および柔道整復に関する法規、柔道整復師と患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント
3	柔道整復師法とその関連内容①：柔道整復師法の目的、柔道整復師・施術所の定義
4	柔道整復師法とその関連内容②：柔道整復師免許に関する要件・申請・手続
5	柔道整復師法とその関連内容③：柔道整復師免許に関する要件・申請・手続
6	柔道整復師法とその関連内容④：施術所について
7	前半まとめ
8	柔道整復師法とその関連内容⑤：柔道整復師の国家試験と業務
9	柔道整復師法とその関連内容⑥：広告・名称の制限、罰則、各機関
10	関係法規①：医療従事者の資格法
11	関係法規②：医療法
12	関係法規③：社会福祉関係法規、社会保険関係法規
13	関係法規④：個人情報の保護に関する法律
14	総まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解説

科 目	職業倫理・社会保障制度	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	藤木 裕樹	教員区分	一般教員

教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社		
参考書	資料、問題を配布する。		
成績評価	定期試験（60%）、小テスト（40%）で評価する。		
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 100%の出席を目指す。 2. 予習、復習を怠らない。 3. 授業中、私語を慎む。不明な点があれば挙手にてその都度質問すること。授業後も可。 4. ノート又は資料にメモをとること。 5. 進行状況により、変更もありうる。 		

科目の目標	職業倫理：医療従事者としての心得を認識する。 社会保障制度：わが国における医療保険制度や医療経済の現状に関する知識を深める。		
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師に関係の深い社会保障制度の基本を学ぶ。 2. 柔道整復師業務における療養費の支給申請について学ぶ。 3. 柔道整復師法や柔道整復師受領委任規程を学習する。 		

日程

回数	授業内容
1	わが国の社会保障 1（社会保障とは、社会保険制度とは）
2	わが国の社会保障 2（医療保険制度とは）
3	わが国の社会保障 3（医療保険制度）
4	柔道整復師業務における療養費 1（療養費とは、柔道整復療養費）
5	柔道整復師業務における療養費 2（柔道整復療養費の推移）
6	柔道整復師業務における療養費 3（療養費の算定、療養費請求）
7	社会保障制度の総まとめ
8	職業倫理 1（医療従事者の職業倫理、柔道整復師に必要な基本的倫理観）
9	職業倫理 2（患者への対応と権利、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント）
10	職業倫理 3（医療従事者の守秘義務、柔道整復師の社会的責任と対応）
11	職業倫理 4（医療における情報と責任）
12	職業倫理 5（受領委任規程①）
13	職業倫理 6（受領委任規程②）
14	職業倫理の総まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解説

科 目	臨床柔道整復学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	長島 茂之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	1. 教科書を持参すること。 2. 復習を心がけること。 3. 不明な点があれば授業中や授業の終わりに質問すること。

科目の目標	柔道整復学理論（総論）を学習し、各論に繋がる知識を更に深め理解する。
授業概要	・スライドや資料を使い教科書の解説を行う。 ・柔道整復学理論（総論）の問題演習を行い、重要な点の解説を行う。

日程

回数	授業内容
1	人体に加わる力・骨の損傷①、問題演習 1
2	骨の損傷②、問題演習 2
3	骨の損傷③、問題演習 3
4	骨の損傷④、問題演習 4
5	骨の損傷⑤、問題演習 5
6	関節の損傷①、問題演習 6
7	関節の損傷②、問題演習 7
8	関節の損傷③、問題演習 8
9	筋の損傷、問題演習 9
10	腱の損傷、問題演習 10
11	末梢神経の損傷、問題演習 11
12	診察、問題演習 12
13	整復法、問題演習 13
14	外傷予防、問題演習 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総合 I ①	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (前期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「柔道整復学・理論編 改訂第7版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	定期試験 (80%)、小テスト (20%) で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が診察をする際に必要な応用的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し柔道整復師として必要な知識レベルを確認する。また重点的に理解しなくてはならない内容を確認する。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 総論 応用復習 1
2	柔道整復学 総論 応用復習 2
3	柔道整復学 総論 応用復習 3
4	柔道整復学 総論 応用復習 4
5	柔道整復学 総論 応用復習 5
6	柔道整復学 総論 応用復習 6
7	柔道整復学 総論 応用復習 7
8	柔道整復学 総論 応用復習 8
9	柔道整復学 総論 応用復習 9
10	柔道整復学 総論 応用復習 10
11	柔道整復学 総論 応用復習 11
12	柔道整復学 総論 応用復習 12
13	柔道整復学 総論 応用復習 13
14	柔道整復学 総論 応用復習 14
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	柔道整復学総合 I ②	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	8 (前期)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社
参考書	
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。予習復習を欠かさないこと。ノートを用意すること。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	授業は講義形式で行う。適宜小テストをする。

日程

回 数	授業内容
1	柔道整復学 組織損傷 各論復習1
2	柔道整復学 組織損傷 各論復習2
3	柔道整復学 組織損傷 各論復習3
4	柔道整復学 組織損傷 各論復習4
5	柔道整復学 組織損傷 各論復習5
6	柔道整復学 組織損傷 各論復習6
7	柔道整復学 組織損傷 各論復習7
8	柔道整復学 組織損傷 各論復習8
9	柔道整復学 組織損傷 各論復習9
10	柔道整復学 組織損傷 各論復習10
11	柔道整復学 組織損傷 各論復習11
12	柔道整復学 組織損傷 各論復習12
13	柔道整復学 組織損傷 各論復習13
14	柔道整復学 組織損傷 各論復習14
15	定期試験
16	試験解説

科 目	柔道整復学総合 I ③	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (前期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	田中 敦	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社		
参考書			
成績評価	定期試験で評価する。		
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。予習復習を欠かさないこと。ノートを用意すること。		

科目の目標	柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。		
授業概要	授業は講義形式で行う。適宜小テストをする。		

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 基礎的知識 1
2	柔道整復学 基礎的知識 2
3	柔道整復学 基礎的知識 3
4	柔道整復学 基礎的知識 4
5	柔道整復学 基礎的知識 5
6	柔道整復学 基礎的知識 6
7	柔道整復学 基礎的知識 7
8	柔道整復学 基礎的知識 8
9	柔道整復学 基礎的知識 9
10	柔道整復学 基礎的知識 10
11	柔道整復学 基礎的知識 11
12	柔道整復学 基礎的知識 12
13	柔道整復学 基礎的知識 13
14	柔道整復学 基礎的知識 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	柔道整復学総合 I ④	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	8 (前期)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	岩坪 弘之	教員区分	一般教員

教科書	講義資料を配布する。
参考書	「第24回～第33回 徹底攻略 国家試験過去問題集」医道の日本社
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	柔道整復師としての臨床的な知識を再確認する授業なので欠席をしないこと。

科目の目標	柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。これにより医療面接や鑑別診断を的確に行えることを目標とする。
授業概要	国家試験過去問題を使用し、柔道整復師として必要な知識レベルと重点的に理解しなくてはならない内容を確認する。

日程

回数	授業内容
1	柔道整復学 臨床的知識 1
2	柔道整復学 臨床的知識 2
3	柔道整復学 臨床的知識 3
4	柔道整復学 臨床的知識 4
5	柔道整復学 臨床的知識 5
6	柔道整復学 臨床的知識 6
7	柔道整復学 臨床的知識 7
8	柔道整復学 臨床的知識 8
9	柔道整復学 臨床的知識 9
10	柔道整復学 臨床的知識 10
11	柔道整復学 臨床的知識 11
12	柔道整復学 臨床的知識 12
13	柔道整復学 臨床的知識 13
14	柔道整復学 臨床的知識 14
15	定期試験
16	試験解説

科 目	柔道整復応用実技 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	春日 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	理論で学んだ内容を実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる技術を習得する。
授業概要	認定実技審査の課題を中心に実技実習を行い、理論と実技の組合せで理解力を深める。

日程

回 数	授業内容
1	第2指PIP関節背側脱臼の固定〔アルミ副子背側固定〕
2	第5中手骨頸部骨折の固定〔アルミ副子掌側固定〕
3	鎖骨骨折の固定〔Sayreテープ固定〕
4	肩鎖関節上方脱臼の固定〔ロバート・ジョーンズ固定〕
5	肩関節前方脱臼の固定〔局所副子、三角巾固定〕
6	肘関節後方脱臼の固定〔クラーメル副子、三角巾固定〕
7	コーレス骨折の固定〔クラーメル副子、局所副子、三角巾固定〕
8	上腕骨骨幹部骨折の固定〔ミッデルドルフ三角副子固定〕
9	アキレス腱断裂の固定〔クラーメル副子固定〕
10	下腿骨骨幹部骨折の固定〔クラーメル副子固定〕
11	肋骨骨折の固定〔さらしと厚紙副子固定〕
12	総復習①
13	総復習②
14	定期試験①
15	定期試験②
16	定期試験解説、まとめ

科 目	柔道整復応用実技Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	関口 将一	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験、出席状況（欠席：－5点、遅刻：－3点）で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し、診察法・検査法のスキルアップを図り臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

日程

回数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折の診察及び整復
2	上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復
3	コーレス骨折の診察及び整復
4	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復
5	肩関節前方烏口下脱臼の診察及び整復
6	肘関節後方脱臼の診察及び整復
7	肘内障の診察及び整復
8	肩腱板損傷の診察及び検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査法
10	復習①（骨折の整復法）
11	復習②（脱臼の整復法）
12	復習③（検査法）
13	総復習
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括

科 目	柔道整復応用実技Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	佐藤 篤史	教員区分	一般教員

教科書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	「認定実技審査要領 令和4年度改訂版」公益財団法人柔道整復研修試験財団
成績評価	実技試験（70%）、小テスト（30%）、出席状況（欠席：-5点、遅刻：-3点）、授業態度で評価する。
留意事項	実技実習受講についての注意事項に準ずる。

科目の目標	認定実技審査項目を学習し、診察法・固定法・検査法の技術向上を図り臨床に必要な技術と知識を身に付ける。
授業概要	認定実技審査項目に沿って授業項目を選別していく。

日程

回数	授業内容
1	膝関節側副靭帯損傷（絆創膏固定）
2	足関節外側靭帯損傷（絆創膏固定）
3	足関節外側靭帯損傷（局所副子固定）
4	下肢固定法復習
5	ハムストリングス損傷
6	大腿四頭筋打撲
7	膝関節側副靭帯損傷
8	膝関節十字靭帯損傷
9	膝関節半月板損傷
10	下腿三頭筋損傷
11	足関節外側靭帯損傷
12	復習①
13	復習②
14	定期試験①
15	定期試験②
16	試験解説、授業総括